



# The Baseball Hall of Fame and Museum

## 公益財団法人 野球殿堂博物館

### 野球殿堂入り表彰式

館長 廣瀬 信一

～斎藤 雅樹氏・工藤 公康氏・榎本 喜八氏～



左から 斎藤 雅樹氏 熊崎 勝彦理事長 工藤 公康氏 王 貞治氏 榎本 喜栄氏

競技者表彰で野球殿堂入りをされた、斎藤 雅樹さん、工藤 公康さん、故・榎本 喜八さんの表彰式を7月15日(金)に福岡ヤフオク!ドームで行われたオールスター第1戦の試合開始前に行いました。

競技者表彰・プレーヤー表彰で選出された斎藤さんは、11試合連続完投勝利のプロ野球記録を樹立。3度の沢村賞、歴代2位となる最多勝利5回など巨人のエースとして輝かしい成績を残されました。同じくプレーヤー表彰で選出された工藤さんは、プロ野球タイ記録である実働29年間で、224勝を挙げました。日本シリーズには、王 貞治氏と並ぶ史上最多の14回出場。そのうち11回日本一となり、優勝請負人と呼ばれました。

エキスパート表彰で選出された榎本さんは、毎日に入団1年目から15年連続100安打を記録し、プロ野球史上最年少の31歳7ヶ月で、2000本安打を達成。安打製造機と呼ばれ、ミサイル打線の主軸として活躍しました。

両軍の選手・監督・コーチが各々ベンチ前で整列し、場内アナウンスで斎藤さん、工藤さん、榎本さんのご長男喜栄(よしひで)さんがスクリーン映像の紹介とともに登場されました。始めに、当館の熊崎 勝彦理事長より記念のレリーフのレプリカが各々に贈られました。次に、王 貞治さん(1994年野球殿堂入り)より花束が贈呈されました。王さんは、斎藤さんが現役時代の監督で、早稲田実業では榎本さんの後輩にあたり、現在、工藤さんが監督として率いている福岡ソフトバンクホークスの会長です。

記念撮影に続き、斎藤さんは「光栄です。支えてくれた全ての方、ファンの方に感謝したい」、工藤さんは「たくさんのファンの前で受け取れて光栄です。野球殿堂に入れる選手を育てたい」榎本さんは「父のプロ野球での実績が公に評価されて感謝しています。温かい拍手をいただき、父は幸せです」と挨拶されました。そして最後に改めて、満員の客席から受賞された三人に対し大きな拍手が送られました。

The Baseball Museum



～松本 瀧蔵氏・山中 正竹氏～



左から 柳 裕也明大主将 松本 満郎氏ご夫妻 熊崎 勝彦理事長 山中 正竹氏ご夫妻 森川 大樹法大主将

特別表彰で野球殿堂入りされた故・松本 瀧蔵さんと山中 正竹さんの表彰式を、学生野球の聖地である神宮球場で、5月28日(土)早慶戦の試合開始前に行いました。

松本さんは、1901年広島県に生まれ、幼少期に家族でアメリカに移住しました。帰国後、広陵中学に編入、卒業後は明治大学に進学し、1929年の明大野球部の世界一周遠征にはマネージャーとして参加しました。戦後は英語力を生かし、選抜高校野球大会の復活など、GHQなどとの様々な交渉に携わりました。サンフランシスコ・シールドズが、戦後初めてのプロ野球チームとして来日した際には日本側の実行委員長、世界ノンプロ野球選手権大会でも委員長を務めました。また、1949年の社会人野球協会発足時には顧問、1955年からは副会長を務め、国際派として戦後の野球復興に貢献しました。

山中さんは、1947年大分県に生まれ、法政大学では一年春から投手として活躍し、東京六大学リーグの歴代最多勝利記録となる通算48勝をあげました。卒業後は住友金属に進み、6年連続で都市対抗に出場、1981年から監督となり、翌年には都市対抗で優勝しました。1988年ソウルオリンピックでは、日本代表コーチで銀メダルを、1992年バルセロナオリンピックでは、監督として銅メダルを獲得しました。1994年からは、母校法政大学の監督となり、リーグ優勝7回、全日本大学野球選手権大会優勝1回を達成するなど、アマチュア野球界で、プレーヤーとして、また指導者としても活躍し、球界の発展に貢献しました。

早慶両チームの選手・監督が各々ベンチ前に整列したのち、松本さんのご長男の満郎さん、続いて山中さんがスクリーン映像の紹介とともに登場されました。はじめに、熊崎 勝彦当館理事長より記念のレリーフのレプリカがそれぞれに、そして満郎さんには明治大学、柳 裕也主将から、山中さんには法政大学、森川 大樹主将から花束が贈呈されました。記念撮影に続き、満郎さんより、「歴史の中に埋没していた父に、殿堂入りという野球界最高の栄誉をいただき、この上ない喜び」と感謝の言葉を述べられました。

山中さんは「東京六大学と神宮球場で得たものは学びと仲間。学ぶことの尊さを私に教えてくれました。微力ながら日本球界発展のためにささげたい」と挨拶されました。

## 殿堂入りの人々を語る(52)

### 父・松本 瀧蔵の想いで

松本 満郎 (2016年野球殿堂入り 松本 瀧蔵氏長男)



松本 瀧蔵氏

父がこの世を去ってから57年余り経過し、生前の父を知る方々も少なくなっていました。既に歴史の片隅へ埋没していた父を、このたび野球殿堂入りという栄誉で再び呼び起こして下さいました方々に、先ずもってお礼を申し上げたいと存じます。

父は生後間もなく母親とアメリカに移民し、カリフォルニア州のフレズノで幼少期を過ごしました。幼い頃から頭脳明晰で、学校では常にトップの成績を取っていたそうです。フレズノ・ハイスクールでも首席の成績を続け、今でいう生徒会長に推挙されました。当時の米国は、日本人に対する差別偏見が激しかった時代です。その中で日本人である父が、常に全校生徒の先頭に立って行進を指揮する、その姿を見た日系人が日本人としての誇りを取り戻し、感涙にむせんだと伝えられています。

やがて父は広島に帰国。日本語があまり達者でなかったため、広陵中学の3年に編入したのち明治大学に進学します。明治大学では野球部に所属し、このことがやがて野球人として活躍するきっかけとなりました。

明治大学に在学中、「学生の三奇人」といわれた3人がいました。「いつもギターばかり弾いている学生」これは古賀 政男。「やたらに演説ばかりしている学生」これは三木 武夫。「英語が達者な学生」これが父です。

父は英語による日米対抗学生弁論大会に出場し、見事に優勝。その実力を買われ、卒業後は明治大学に教授候補として残されました。助教授(当時)のとき父は米国の「ハーバード・ビジネススクール」に経営学を勉強するため留学しましたが、この学歴が戦後の野球復活に多いなる助けとなるのです。

第2次世界大戦中に、父はフィリピン国立大学の教授に派遣されました。この大学で教鞭を取っていた時の人脈が、戦後に結成された「アジア野球連盟」「アジアオリンピック」の発足に大きな力となります。

昭和20(1945)年に終戦となり、連合軍が日本に駐留し始めます。その先陣として上陸した米国海兵隊の指揮官が発した第一声は、「松本 瀧蔵を探せ」という言葉だったそうです。それを聞いた友人たちは父に、「君は戦犯として捕まるから何処かへ逃げろ」と忠告してくれたそうです。しかし父は逃げることなく、出頭したところ、その指揮官はフレズノ・ハイスクールの同級生で、日本に上陸したら真っ先に父との旧交を暖めたかったそうです。

占領当時のマッカーサー司令部は、軍政の主力メンバーにハーバード出身者が在職しており、このことがマッカーサー司令部との折衝に大いに役立ちました。

昭和21(1946)年に、戦後初の国政選挙が行われた時のことです。父は三木 武夫氏(後の総理大臣)から政治家になるよう勧められ、衆議院議員選挙に立候補して無事に当選し、戦後政治の一角に加わることとなります。政治家として父は、戦後の日本復興に際し「日本人に再び笑顔と誇りを取り戻させたい」という政治信条を抱き、その一端として行ったのが戦後の野球復活です。父は国会に「野球振興議員連盟」を発足させ、明治神宮球場や後楽園球場の接収解除活動に貢献しています。また米国野球チームの日本招聘や日本チームの海外遠征の実現にも努力を傾注しました。

父の人生から、野球を切り離すことは決してできません。その父が野球人として最も光栄ある野球殿堂入りを果たせましたことは、この上ない喜びであり、その実現にご努力頂きました方々へ、重ねて深く感謝申し上げます。



## 2016年夏休み企画

### 「野球で自由研究！」

期間▶~8月31日(水)

会場▶野球殿堂博物館 図書室、企画展示室 ほか

野球には、歴史や野球用具、野球場など小・中学生の自由研究のテーマになるものがたくさんあります。当館では、今年も小・中学生の自由研究をサポートする「野球で自由研究！」を開催します。

企画展示室で、特徴的な用具などを展示し、図書室では、自由研究のテーマになりそうな歴史や用具、野球場などの資料を集めて、小・中学生をサポートします！スタッフがいるので、わからない事があったら何でも聞いてください！



#### ● <ミニミニ実験コーナー>

当館スタッフによる「ミニミニ実験コーナー」を、今年も行います。

開催日▶7月21日(木)~8月31日(水)のうち、当館でイベントのある日を除く。  
詳しくは、当館ホームページでご確認ください。

時間▶14:00~、15:00~ (各回20分程度)

会場▶企画展示室

### 【特別イベント】

#### 「夏休み 審判学校！」

今年は講師が2名増えてパワーアップ！プロ野球の審判員と一緒に、君も審判員になろう！恒例のお楽しみ抽選会も実施します！

日時▶8月6日(土)、8月12日(金) 両日とも14:00~ (2時間程度)

会場▶イベントホール

講師▶野球規則委員、前NPB審判長 井野 修 氏

NPB審判長 友寄 正人 氏

審判技術委員 山崎 夏生 氏、渡田 均 氏、平林 岳 氏、栄村 孝康 氏

対象▶審判に興味のある小・中学生

協力▶一般社団法人 日本野球機構



#### 「バット製作実演」

今年もバット削りの実演を開催します！

ミズノ株式会社のご協力により、クラフトマンによるバット製作の実演に加え、バットにまつわるいろいろな質問にもお答えします。自由研究の題材におすすめのイベントです。

日時▶8月23日(火)、24日(水)

11:00~12:00、13:30~14:30、15:00~16:00 予定

会場▶野球殿堂博物館 野球殿堂ホール

協力▶ミズノ株式会社



### 【特別展】

#### 平成28年野球殿堂入り特別展 斎藤 雅樹氏、工藤 公康氏、榎本 喜八氏

会期▶~9月25日(日)

会場▶野球殿堂博物館内 野球殿堂ホール

野球殿堂博物館では、斎藤 雅樹氏、工藤 公康氏、榎本 喜八氏の野球殿堂入りを記念して、「平成28年野球殿堂入り特別展」を開催します。3氏ゆかりの資料や写真等を展示し、経歴などをご紹介します。



## 来館してくれたマスコット・チアリーダーのみなさん

### プロ野球12球団デー

4月19、20日	楽天	5月27、28、29日	阪神
4月22、23、24日	DeNA	6月26、27日	ソフトバンク
5月3、4、5日	広島	7月8、9、10日	読売
5月10、11日	オリックス	7月12、13日	ロッテ
5月13、14、15日	ヤクルト	※西武は3月20、21日に開催	

楽天

4月

19日



今年も各球団のファンクラブ会員様向け企画として、球団デーを開催中です。

会員証提示で小・中学生の会員様は、入館無料、有料会員の皆様オリジナルポストカード(先着300名)をプレゼントしています。

当日限定の日本シリーズ上映やユニホームの展示なども実施しています。

DeNA

4月

23日



ヤクルト

5月

14日



広島

5月

4日



ソフトバンク

6月

27日



侍ジャパンの公式マスコット、応援侍 たまべエも来館

阪神

5月

28日



ロッテ

7月

12日



読売

7月

8日



今後の予定 ・ 8月30、31日、9月1日 日本ハム  
 ・ 9月2、3、4日 中日



## 野球殿堂博物館 トピックス (2016年5月～7月)

### 6月16日(木) 西村 幸生氏 関大ハワイ遠征サインボール 寄贈式

6月16日(木)午前11時より、当館殿堂ホールにおきまして、1977年に野球殿堂入りされた西村 幸生氏のサインボール寄贈式を行いました。

西村氏は関西大学野球部のエースとして活躍、卒業後は大阪タイガースのエースとして、1937、38年のタイガース年度優勝の立役者となりました(1945年戦没)。

サインボールは西村氏が関西大学野球部主将として臨んだ1936年のハワイ遠征の際のもので、当時バットボーイを務めた地元の方が保管していたものです。西村氏のご長女・ジョイス 津野田 幸子様より、当館にご寄贈いただきました。このサインボールは殿堂ホールで展示しています。



### 7月1日(金) 法政大学野球部員38名来館!

法政大学の青木 久典監督、真木 将樹コーチ以下、野球部員38名が野球殿堂博物館を見学しました。



### 7月3日(日) 東京六大学野球連盟新入部員約240名来館!

東京六大学野球連盟に所属する各大学の野球部新入部員約240名が野球殿堂博物館を見学しました。

見学は、同日法政大学で開催された「東京六大学野球連盟 合同新人研修会」の後に行われました。



### 7月18日(月) アメリカ大学代表チーム来館!

第40回日米大学野球選手権大会に出場したアメリカ大学代表チームが来館しました。

## 博物館からのお知らせ

### ▶ 理事会

5月19日(木) 都内のホテルにおきまして、理事会を開催致しました。

議題1. 平成27年度事業報告・決算報告・監査報告の承認について  
議題2. 会議日程及び議題等の承認について など

### ▶ 評議員会

6月6日(月) 都内のホテルにおきまして、評議員会を開催致しました。

議題1. 平成27年度貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)の承認について

議題2. 定款変更の承認について

議題3. 理事及び監事の選任について

議題4. 役員報酬の承認について など

### ▶ 退職

高城謙造業務担当部長が5月31日付で期間満了につき退職いたしました。

### ▶ 次回企画展の予定

「名選手のグラブ展」(仮称) … 9月10日(土)～10月23日(日)

博物館のご案内	場 所	東京ドーム21ゲート右
	開館時間	3月1日～9月30日 AM10時～PM6時(入館は閉館の30分前まで) 10月1日～2月末日 AM10時～PM5時
	入館料	大 人 600円(500円) 高・大学生 400円 小・中学生 200円(150円) 65歳以上 400円
	休館日	月曜日(祝日、東京ドームでの野球開催日、春夏休み中の月曜日は開館) 年末年始(12月29日～1月1日)

### ● 編集後記

紙面の都合上「知ってほしいこんな資料」「こんにちは図書室です」「コラム博覧/博楽」は休載します。

### 野球殿堂博物館 Newsletter 第26巻 第2号


2016年8月5日発行(年4回発行)

編集・発行 公益財団法人 野球殿堂博物館  
(旧・財団法人 野球体育博物館)

〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61

Tel 03(3811)3600 Fax 03(3811)5369

<http://www.baseball-museum.or.jp/>

リレー随筆 (64)

## 機械よりも「人間」の目

競技者表彰委員会委員 後藤 吉希 (報知新聞社)

ちょっと古い話になるが1998年6月6日、横浜・阪神戦（札幌）でのこと。1回表1死二塁で、阪神・パウエルが放った打球は左中間フェンスの金網を直撃し、そのまま挟まって抜けなくなった。その間にパウエルは三塁まで進んだが、審判団はタイムをかけ、野球規則にのっとってエンタイトルツーベースを宣告。しかし、阪神・吉田 義男監督は判定に納得がいかなかった。打球がフェンスに挟まったことが信じられず、二塁ベース付近で抗議。審判団から説明されても折れず、ついには自ら外野へと出向いていったのだった。

横浜・波留 敏夫外野手に事情を確認すると、続いて外野席に陣取る阪神ファンの目の前まで足を運んで「ほんまでっか?」。やがて、すごすごとベンチへ引き下がった。試合後には「お客さんも『フェンスに刺さってた』と言ってましたわ。視覚と実際は違うものですか」と、ひょうひょうと振り返った。

「1人カラオケ」「1人焼き肉」がブームだという今風に言えば、「1人リプレー検証」となるのか。とにかく珍パフォーマンスである。

今季から本塁での危険な接触を防ぐため「コリジョン（衝突）ルール」が導入されたことに伴い、本塁上でのクロスプレーについて新たにリプレー検証が可能になった。コリジョンルールについては、守備側の選手は三塁ファウルライン沿いの走路に入れないという基準を厳格に運用した結果、判定に異議を唱える声が内外から続出。シーズン中にもかかわらず、NPBが運用基準の見直しについて検討を進めることになった。このルール、本来は1点のために選手の生命が脅かされるようなことがあってはならないというもの。その点では確かに行き過ぎた運用だったように思うが、そもそも、一番の問題は本塁上での「リプレー検証」の導入にあったのではないだろうか。

吉田監督の言葉を待つまでもなく、人間の目はビデオカメラには到底及ばない。たとえば4月8日のロッテ・西武戦（QVCマリン）ではアウトの判定が、リプレーにより捕手がタッチしていなかったことが確認されてセーフに。6月10日の日本ハム・阪神戦（札幌ドーム）では逆に、セーフの判定がアウトに覆った。どちらもコリジョンルールとは無関係のケース。純粋にアウト、セーフのジャッジが誤りであったことが、リプレー検証で浮き彫りになった。しかし、リプレーでしか分からないような誤審は果たして誤審と呼べるのか。

素人目には本塁よりも簡単だと思われる一塁のアウト、セーフの判定について、元セ・リーグ審判部長の田中 俊幸さんは著書「プロ野球 審判だからわかること」（草思社）で「実際には、ベースを踏む走者の足と一塁手のミットにおさまる球を人間の目で同時に確認することはできない」と明かしている。その上で「私は走者の足を目で確認し、送球は捕球するときのミットの音で判断した。これなら、走者の足に集中でき、スパイクがベースを踏む瞬間まではっきり確認できる」。視覚の限界を、聴覚で補っているわけだ。

安易なりプレー検証は、こうした審判員の神業や職人魂を殺してしまうことにもなりかねない。そうなれば野球界にとっては大きな損失だ。

正しくて当たり前、間違えれば集中砲火を浴びる損な役回りにもかかわらず、日々研さんを積み、重圧に負けず、神経を研ぎ澄ませている審判員。そのジャッジは、リプレー映像を基にしたジャッジよりも尊いと私は思う。プロ野球ファンも我々記者もその多くは、100%の正しさよりも瞬時に下された“人間臭いジャッジ”がもたらす悲喜劇に一喜一憂しているのである。





# The Baseball Hall of Fame and Museum

## 公益財団法人 野球殿堂博物館

### 「野球殿堂博物館在り方検討委員会」のご報告 1 館長 廣瀬 信一

当館は1959年に開館し、88年の東京ドーム完成と共に、現在の場所へ移転しました。移転から27年が経過した昨年、当館の現状と課題を把握するため館内に内部委員会（座長・下田 邦夫 一般社団法人 日本野球機構 参与（当時））を設置致しました。この内部委員会では、SWOT分析を行い、当館の強み・弱みを明らかにし、把握するよう努めました。また、来館者や殿堂入りされた方々、維持会員の方々にもアンケート調査を行いました。

そして、本年1月に有識者・関係者にお集まりいただき「野球殿堂博物館在り方検討委員会」を発足させました。委員長は日本博物館協会専務理事の半田 昌之氏、副委員長はオリックス野球クラブ常務取締役の村山 良雄氏にお願いし、3回の委員会を開催いたしました。5月16日に委員会でもとめた報告書を熊崎 勝彦理事長に提出していただきました。

報告書の中で、当館が目指すべき“ミッション（使命）”についても項目があり、5月の理事会、6月の評議員会で報告され、承認されました。

当館のミッションを紹介いたします。

#### 野球殿堂博物館ミッション

私たち野球殿堂博物館は

#### 「つなげる」「ひろげる」「たたえる」

をテーマに博物館活動を推進し、野球を通じて、人々の生活を豊かにします。

野球の過去と未来を「つなげる」機能を充実させていきます。

次世代を担う子どもたちへ、野球の魅力や楽しさを伝え、「ひろげる」ための活動を推進していきます。

日本野球の発展に貢献した方を永久に「たたえる」殿堂事業を進展させていきます。

報告書には、ミッションを達成するために、当館に求められるべき機能として、次の4つが挙げられています。

- ・野球の歴史と文化の研究を促進するための「知の情報集積拠点」としての機能
- ・展示や教育・普及活動を通じて、野球の歴史と文化を伝えるための「情報発信拠点」としての機能
- ・次世代を担う子どもたちへ野球の楽しさを広げるために、シニア世代や女性も視野に入れた「普及・振興の拠点」としての機能
- ・日本の野球の普及、発展に貢献した方々を顕彰する機能

これまででも、野球の普及・振興のために活動して参りましたが、これからは野球殿堂博物館全体でこのミッションを常に念頭に置きながら博物館活動を行っていく所存ですので、より一層のご理解・ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

次号では、報告書で指摘された当館の課題や取り組むべき事項について紹介させていただきます。

#### ◎野球殿堂博物館在り方検討委員会委員

委員長 半田 昌之（日本博物館協会専務理事）	委員 田名部和裕（日本高等学校野球連盟理事）
副委員長 村山 良雄（オリックス野球クラブ常務取締役）	委員 長岡 勤（東京ドーム代表取締役社長）
委員 樺山 紘一（印刷博物館館長）	委員 前田 恵（スポーツライター）
委員 志村亜貴子（侍ジャパン女子日本代表）	

（敬称略）